

令和6年度 第2回奄美市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和6年8月22日(木)9:30~11:30
開催場所	奄美市役所 5階大会議室
出席者 (14名)	平田委員長, 加世田副委員長, 正本委員, 川内委員, 福田委員, 下田委員, 福崎委員 吉村委員, 稲田委員, 肥後委員, 三浦委員, 垣内委員, , 松山委員, 西谷委員
事務局	福祉事務所長, こども未来課, 福祉政策課, 健康増進課, 重点政策推進監, 学校教育課 住用総合支所市民課, 笠利総合支所いきいき健康課, 笠利総合支所地域教育課 計画策定業者
〈議題〉	1 開会 2 協議 (1) 第2期奄美市子ども・子育て支援事業評価について (2) 第3期子ども・子育て支援計画骨子案について (3) 認定こども園への移行について (4) その他 5 閉会
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)	
<p>(1) <u>第2期奄美市子ども・子育て支援事業評価について</u></p> <p>資料1に基づき, 第2期奄美市子ども・子育て支援事業評価を報告</p> <p>質疑は, 以下のとおり</p> <p>(委員)</p> <p>D評価が3点について, 上手く進まなかった理由を説明していただきたい。</p> <p>(事務局)</p> <p>8ページ基本目標3子どもの健やかな成長に向けた支援8番乳児家庭全戸訪問事業について奄美市では平成20年度から実施している。 前年度が35件と少なかったためD評価。令和4年度までは例年150件前後であったが、令和5年2月に出産子育て応援交付金事業という新たな事業がスタートし、訪問時期が重なるため、当事業での令和5年度の訪問は35件となった。 今年度初めに訪問をお願いしている推進委員と、改めて調整の段階である。</p> <p>(委員長)</p> <p>新たな交付金事業のほうで35件とは別に訪問はしており、例年の150件に近い訪問はできているという理解でよいか。</p> <p>(事務局)</p> <p>その事業も含めて、全数の把握はできているという理解で問題ない。</p>	

(事務局)

10ページ基本目標4仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進(1)子育てしやすい就労環境づくり
1ワーク・ライフ・バランスについて、担当課不在のため事務局より説明。
企画調整課では、令和3年度から5年度、市民団体との協働で男女共同参画研修を開催し、啓発を実施。
商工政策課では、ワークライフバランスに取り組む事業所の経費支援及び啓発事業を通じて、市内事業所の
職場環境改善により地域のワークライフバランスの推進を図ったが、実績はなかったと報告を受けている。
参考として、厚生労働省のサイト内で、女性の活躍・両立支援総合サイトでは、奄美市の44事業所が一般事
業主行動計画を掲載している。その中でも仕事と家庭の両立を図る次世代育成支援対策推進法に基づく一
般事業主行動計画を策定している42事業所は、両立支援を図る計画をたて事業を進めていると認識して
いる。ワークライフバランスの推進や男性育休の取得状況について、各事業所の詳細状況は把握していない
とのこと。

(事務局)

16ページ(1)良質な居住環境の確保3番子育て・保健・福祉複合施設整備・運営についての説明。
内容は中心市街地に「子育て支援」「生涯を通じた健康づくり・生きがいづくり」「多世代交流」を通して、少子
高齢化を取り巻く課題解決を行う拠点となる子育て・保健・福祉複合施設を整備すると計画に位置づけてい
たが、令和2年度以降に全国的な建設需要の高まりによる建設関連経費の高騰や新型コロナによる生活様
式の変化、市の庁舎、市民交流センターの建設といった大型事業の実施もあり、改めて整備計画を見直すこ
とを判断、令和4年度に、市民の健康づくりや子育て支援を一体的に果たす施設として、以前よりもコンパク
トで効率的な施設のあり方を検討するとした。現在、健康づくりでは保健センター機能を中心として、子育て
支援では、親子連れが気軽に寄れて、一時預かりも含めた施設など検討を行っている。取り組みとしては、
検討段階なのでD判定とした。

(委員)

9ページの15番やちやぼう発達相談について、現在、年中組を対象に発達相談を計画しているが、個別相談
は、ハードルが高く参加ができないと思う。対象年齢を広げ、就学前の園児も対象にして、相談会の意義を
具体的に説明することで、参加者も増えると思う。デリケートな問題を抱えている方へ幼稚園のほうから声を
掛けにくいので、全体に対し、説明する機会をもってほしい。

(事務局)

令和4年度から保育所・幼稚園の園児に対して市の保健師が対応している。健診が3歳児健診で終了し、就
学までに子と会う機会がない。年長ではフォローするのに遅いと考え、年中を対象に実施している。個別で
相談対応もしているが、ハードルが高く繋がらない方がいるのも実際の声だと思うので、今後の参考にしたい。

(委員)

8ページ4番産後ケア事業について、最近徳洲会病院の産婦人科の件が発表されたが、去年の12月ぐらい
から宿泊型を実施していたと思うが、奄美市は何か考えているか。

(事務局)

産後ケアの宿泊型については、先日徳洲会病院の事務部長から、現在継続できるかは病院内でも決定して
いないと聞いている。市としては島内で産後ケアの宿泊型ができる体制づくりの協力を病院へお願いしてい
る。

(委員)

ニーズ調査を実施したので、その声と各事業の評価がどのように繋がっているのか。各事業担当者はその声
を捉えながら評価をしたと思うが、それが見えるとより具体的に次の計画に反映しやすいと感じた。

(事務局)

ご意見を参考にしたい。

(委員)

放課後児童クラブにも、のぞみ園と並行通園している発達障害の子もいる。のぞみ園では子どもに対し正しい向き合いができていると思うが、私達は療育について分からず、情報もない。子どもにどこまで支援したらよいのかと思いながら保育している。幼稚園や小学校と大島特別支援学校、療育施設との連携に、放課後児童クラブも含めてほしい。

(事務局)

療育を利用している児童には相談員がつき、支援プランを立てている。相談員を中心に、事業所、学校等と連携を図っているが、学童への声掛けが不十分なのだと感じた。相談員や事業所を含めて年4回程度行うモニタリングで、児童や保護者と対面で発達の評価をするので、放課後児童クラブに参加してもらうことは可能。併せて療育スタッフがアドバイスを行う保育所等訪問支援事業も放課後児童クラブを対象とすることができる。

(委員)

3ページ保育士の資質向上について。ママ友からの情報で、お子さんが先生に冷たくされ、発表会でもその子だけ名前を呼ばれないと聞いている。子どもをそういった保育士へ預けるのは苦しいと感じた。スキルアップ研修を受けているということだが、まずは人間性が大事だと声掛けしてほしい。

(事務局)

保育士の対応に関する苦情や相談窓口はこども未来課や各保育所の所長である。難しい部分もあるとは思いますが、気軽に相談してほしい。人間性の教育にも力をいれていきたい。

(委員長)

皆さまにご審議いただいた評価については、ご意見やご指摘を踏まえて、今後の取り組み内容の改善と併せて第3期の計画策定に向けて参考にさせていただきたく。

(2) 第3期奄美市子ども・子育て支援計画骨子案について

資料2に基づき、第3期奄美市子ども・子育て支援計画骨子案を報告

(質疑なし)

(委員長)

質問がなければ、報告のあった骨子案で今後作業を進めていくということでご異議なしでよろしいか。

(異議なし)

(3) 認定こども園への移行について

(委員長)

認定こども園については、県が設置認可することになっているが、市としては認定こども園への移行について地元の状況を踏まえた意見書を県へ提出することとなっている。そこへ子ども子育て会議の意見も添えることとなっているので、みなさんのご意見を伺いたい。事務局より説明を。

(事務局)

資料3-1～3-2に基づき、認定こども園(こしゅくこども園)への移行を報告

質疑は、以下のとおり

(副委員長)

朝仁保育園は、令和元年度に幼保連携型認定こども園に移行した。1号認定幼稚園枠で利用は、ほとんど保育園と同じ利用の仕方である。幼稚園枠に入った方もいたが、その後就労し、保育園と同じ利用をしているので、幼稚園との差別化はできていると思っている。

小宿保育園がこども園化した際に一番影響を受けるとするのが小宿幼稚園。近い距離にあり、1号認定児を2施設で分けることになる。保育園には給食施設があるので、就労を想定して入所を考えるとされる。

所長会のなかでは特に反対意見はなかった。国は、幼稚園の空いてる枠を使って保育枠を確保することを想定して認定こども園化を進めてきたと思うが、幼稚園がこども園になるには、給食施設の設置が大きなハードルになり、少なかったと感じる。代わりに保育園がこども園になるケースが多い。鹿屋では、ほとんどの園がこども園化された。理由は、運営費が少し多く入ってくるため運営が楽になる。その分職員数の確保が必要になるが、職員の処遇改善になり、新しい事業も広げやすくなるメリットがある。認定こども園化は地域の保育の拡充に繋がり、いいことだと思う。

下方地区は充足しているが、朝日校区は待機児童が多くいると聞いている。拡充できる方策が所長会でも案がでない。手をあげるところがあればと思う。鹿児島県の所長方から、定員に満たず経営に苦慮する園も増え、奄美市は子どもが多くて羨ましいと言われる。事業メニューも豊富で、大きな問題もなく、子育て施策が充実し、子育てがしやすい街だと感じる。全国で合計特殊出生率が下がるなか、奄美市は1.84、徳之島2.1、伊仙町2.8で全国よりも高い出生率を保っているのは、子育てがしやすい街だと思う。どんどんアピールすべき。アピールすることで子育てに繋がっていく。こども園化で、新たなアイデアや子育てに関して広がっていくといい。

(委員)

幼稚園型のこども園では、朝日幼稚園は成功している。数年前から他の公立幼稚園も給食提供の案が出ていて、実現せずに小宿幼稚園は、定員60名中在園児が19名という状況である。朝日幼稚園は給食センターから配膳されているが、小宿幼稚園と名瀬幼稚園も給食導入に対する保護者ニーズがある中で、現在に至った経緯を教えてください。

(事務局)

平成26年度教育委員会の公立幼稚園のあり方検討委員会で、名瀬地区の公立幼稚園について議論の後、令和元年度子育て会議で、朝日幼稚園の認定こども園化及び小宿幼稚園、名瀬幼稚園の3年保育を決定した。幼稚園全体のことはあり方検討委員会、保育所に関しては保健福祉部を中心に議論していくことである。

(委員長)

あり方委員会の内容はこの場では確認できないが、福祉事務所となるのか教育委員会となるのかも含め、今回の意見をしっかり受け止めていく。

(委員)

私立幼稚園なので、影響があると思っている。私立幼稚園にも給食提供を要望したい。保護者ニーズとして給食の提供がある。2歳時の一時預かりもしているが、有料のため園児確保が厳しい状況である。幼稚園と保育園に併願し、保育所に受かったらそっちに流れるため、定員割れが続いている。兄弟児を同じ施設に入りたいのは保護者も施設も同じ気持ちである。私立保育園にも給食の提供や、未満児の利用料補助が欲しい。預かり保育は、就労証明がなければ有料となるので、幼稚園もだれでも通えるような改善を検討してほしい。

(委員長)

議題の小宿保育園の認定こども園の移行については、資料3-1に子ども・子育て会議の意見を付し提出することとなっている。異議なしでよろしいか。

(異議なし)

(委員長)

幼保連携型認定こども園かさりこども園について、公立なので、県への認可申請に対し、子ども・子育て会議の意見書の提出は不要。事務局から内容の報告を。

(事務局)

資料3-3に基づき、認定こども園(かさりこども園)への移行を報告

(質疑なし)

(4) その他

資料4に基づき、その他 策定及び円卓会議概要スケジュールを報告

(委員長)

保育人材確保に特化した会議は初めてであり、12月までに提言を検討している。提言など立て込むため、計画の素案の検討が来年1月などにずれ込むことがありえると認識でよろしいか。

(事務局)

その通り。

(委員長)

子ども子育て会議の重要なテーマでも保育人材確保があるので、計画に反映していただきたい。次回の会議においても、ご協力をお願いしたい。

会議終了